

研究拠点形成費等補助金による出張報告書

平成 18 年 2 月 27 日

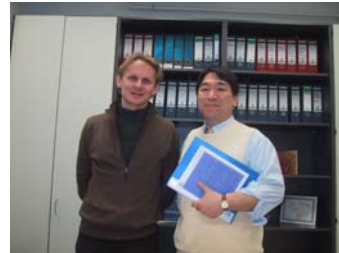
群馬大学・大学院医学系研究科・助教授・下川哲昭

1. 研究種目 平成 17 年度研究拠点形成費等補助金 (若手研究者養成費)
2. 研究課題 「魅力ある大学院教育」イニシアティブ
3. 用務地 (1)ドイツ連邦共和国・フランクフルト市
(2)アメリカ合衆国・ミズーリー州・コロンビア市
4. 用務先 (1)ゲーテ大学・医学部・生化学研究所・分子情報伝達部門
(2)ミズーリ大学・ライフサイエンス研究所・生殖生物学部門
5. 出張日程 平成 18 年 2 月 20 日 ~ 平成 18 年 2 月 24 日 (5 日間)
6. 用務の概要と研究の関連について

(1) ゲーテ大学・医学部・生化学研究所・分子情報伝達部門

主任教授の Dr. Ivan Dikic 氏から、ゲーテ大学・医学部における大学院教育について、そのプログラムや特色について話をうかがった。また、大学院生、研究生 (ポスドク) 数名に大学院の教育プログラムについてのインタビューを行った。大学院の要項を資料としていただいた (添付資料を参照)。

1. ゲーテ大学医学部の大学院の入学者は臨床医学はもとより、基礎医学分野においても医学部の修了者 (M.D.) に限っている。これは全ての大学院生が常に「患者への治療」を念頭においた研究をするための教育プログラムの一つであるとのことであった。
2. 大学院生は欧州という地の利もあって、様々な国から来学している。ポスドクについても日本、アフリカ等からも来学している。ドイツ国内だけでは募集枠を満たす事は難しいのではないかとの事であった (写真左が Dikic 教授)。



(2) ミズーリー大学・ライフサイエンス研究所・生殖生物学部門

主任教授の Dr. R. Michael Roberts 氏からミズーリ大学・ライフサイエンス研究所における大学院教育について話をうかがった。この部門員には 1992 年本学医学研究科を修了した江指俊彦博士が Research Associate として勤務している。また、昨年学位を取得した Dr. Padualaya 女史に学位取得までの経緯とミズーリー大学大学院の感想についてインタビューした。大学院の要項を資料としていただいた (添付資料を参照)。

1. ミズーリー大学の生物系大学院の修業年限は 4 年であり、それぞれの年次での課題 (目標) が明確に規定されている。大学院 1 年次 (D1): Organization, D2: Proposal Defense, (D3): Written Comprehensive, (D4): Dissertation Thesis これらの目標に沿った教育プログラムが組まれている。様々なバックグラウンドを持った学生が来るので、大学院生への講義は充実している。大学院生は米国本国はもとより、多くのアジア人学生が占めている。特に、中国、インド、韓国からの学生が多い。
2. 学生への学費、生活費の資金提供は豊富であり、国、州、市、大学、民間団体など様々なレベルで学生のために資金提供している。インタビューした Dr. Padualaya 女史も留学費用に関しては全く困らなかったとのこと。逆に資金提供が豊富故に、卒業せずに何年も在学している学生もいるとのこと。



(写真左が Padualaya 博士)



(写真右が江指俊彦博士)